

資料配布の場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 筑波研究学園都市記者会
- 平成29年3月21日同時配布

平成29年3月21日
国土技術政策総合研究所

下水道技術開発レポート 2016 を公表

～全国の下水道に関する技術ニーズや新技術導入上の課題を初めて明らかに～

下水道技術開発会議^{*1}では、平成28年度の検討成果を「下水道技術開発レポート2016」として公表します。本レポートでは、今回初めて明らかになった下水道実施都市の技術ニーズの傾向や新技術導入上の課題とともに、下水道技術ビジョン^{*2}への最新の研究開発動向の反映結果や、研究開発を重点化すべき技術の選定結果などを掲載しています。

国総研では、同会議による下水道の技術開発方針や技術導入の支援情報の発信とともに、下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）の実施、技術ガイドライン・技術基準案の策定等により、下水道を支える技術開発と技術導入を支援していきます。

- *1 下水道技術開発会議：下水道技術ビジョンのフォローアップとともに、同ビジョンを実現していくための技術開発の推進方策等の具体検討を目的に国総研が設置した会議（平成28年1月設置。座長：国総研下水道研究部長 榎原隆）
- *2 下水道技術ビジョン：下水道の中長期的な方向性や未来像を示す「新下水道ビジョン」（国土交通省・日本下水道協会）の達成に必要な技術的目標等を示したもの（平成27年12月公表）。11の技術開発分野毎の技術目標と技術開発項目に関するロードマップとともに、技術開発の推進方策等を提示

1. 経緯

わが国の下水道は、人口減少社会の到来や災害リスクの増大、エネルギーの逼迫、施設の老朽化、運営体制の脆弱化など、多くの課題への対応が求められています。これらの課題に産学官連携の下で技術的側面からの対応方策を検討するため、国総研では「下水道技術開発会議」を設置・運営しています。

2. 下水道技術開発レポート2016の公表

下水道技術開発会議では、下水道技術ビジョンの継続的なフォローアップの一環として、同会議における調査分析・検討結果や今後の課題について定期的に取りまとめて公表することとしました。本レポートは、同会議における今年度の以下の成果を取りまとめたものです。

- ・全国の下水道実施都市の技術的課題・ニーズを分析し、その傾向を今回初めて明らかに
- ・技術公募の結果をもとに、最新の研究開発動向をロードマップに反映し、下水道技術ビジョン（一部改定版）として公表
- ・同ビジョン・ロードマップの重点課題の選定により、研究開発の重点化方針を提示
- ・下水道技術の開発・導入促進に向けた課題に関する今後の取り組み方針を提示

3. レポートの概要（別紙参照）

なお、本レポートは、国総研ホームページからダウンロード可能です。

【報告書公開 URL】 <http://www.nilim.go.jp/lab/eag/gesuidougijyutsukaihatsukaigi.html>

（問い合わせ先）

国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究官 岡本 誠一郎

TEL：029-864-3726 FAX：029-864-2817 E-mail：nil-gesuidou@mlit.go.jp

「下水道技術開発レポート2016」の概要

● 下水道技術開発レポートとは？

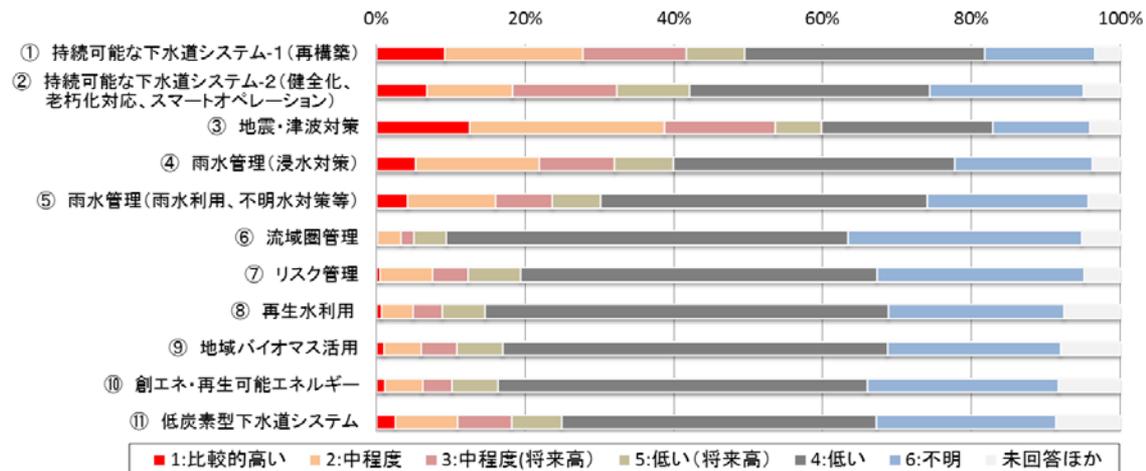
- ◆ 下水道技術ビジョンの継続的なフォローアップの一環として、下水道技術開発会議における分析・検討結果や今後の課題について定期的に取りまとめ、公表することとしている
- ◆ 本レポートは、同会議で平成28年度に検討した事項を取りまとめたもの

● 本レポートの概要

- ◆ 第1章 下水道技術開発会議の発足経緯とその役割、会議の開催経過
- ◆ 第2章 下水道事業の技術的課題・ニーズに関する分析

- ◆ 全国の下水道実施都市に対して、技術的課題・ニーズに関するアンケート調査等を実施
- ◆ 下水道技術ビジョンの中の技術分野に対する**地方公共団体のニーズや、技術導入上の課題を初めて明らかにした**
- ◆ これらの結果は、今後の**研究開発の促進に寄与する情報として本レポートで公開した**

全国の下水道実施都市における技術分野別のニーズの度合い(アンケート調査結果)



「下水道技術開発レポート2016」の概要

- ◆ 第3章 下水道技術ビジョン・ロードマップの見直しと重点課題
 - ◆ 同ビジョン中の技術目標のうち、**研究開発を重点化して実施すべきものを「ロードマップ重点課題」として選定**（H28.7.15公表済）
 - ◆ 下水道分野の**研究開発動向をロードマップに機動的に反映**するため、技術提案を公募。要件を満たした技術は、ロードマップに反映し、下水道技術ビジョンを一部改定
 - ⇒ 平成28年度はロードマップに「膜ろ過・嫌気処理による省エネ・創エネ型水処理技術」の追加などの改定を行った
- ◆ 第4章、第5章 下水道技術の開発・導入促進に向けた課題に関する検討
 - ◆ アンケート・ヒアリング結果より技術導入上の課題を分析
 - ◆ これらを基に当会議における検討課題を整理（下図参照）

今後、下水道技術開発会議が取り組んでいく**6つの柱**

1. 技術ニーズの把握と発信
2. 技術シーズの把握と発信
3. ニーズとシーズの架け橋
4. 国などの技術情報の共有
5. 地方の技術開発・導入の支援
6. 技術開発全体の戦略・方針の提示

